

## 被災者支援中長期支援活動【中間報告】

# 女性と子どもの安全と安心のために

2011年3月11日、まだ雪の舞う東北地方で、私たちの価値観が変わる衝撃的な大きな災害と東京電力福島第一原発の事故が起きました。「悲しみ」「絶望」「不安」「怒り」、そして「絆」「支え合い」「愛」「希望」、ありとあらゆる感情が交錯しながら半年が経ちました。

震災発生直後から日本YWCAは、国内外のYWCAと協力して、地震と津波被害そして原発事故により、家族、財産、そして町を失った人々への緊急支援活動を行い、4月からは東日本大震災支援プロジェクトを立ち上げて「女性と子どもの安全と安心のために」中長期支援活動を開始しました。

多くの個人、団体の皆さまから、募金（2011年8月31日現在助成金も含めて約3,150万円）や励ましのメッセージをお寄せいただきました。改めて心よりお礼申し上げ、支援活動の柱となる3つの活動（①被災者受け入れのための住居支援 ②こころのケア活動 ③福島県新地町での「災害ボランティアセンター」活動支援）に関する中間報告をいたします。

### ■被災者受け入れのための住居支援

福島県の放射線量の高い地域から、地域YWCAの紹介する住居、家庭での受け入れプログラムを実施しました。9つの地域YWCAが14家族42人を迎え入れ、楽しいプログラムを実施しました。その数は決して多くはありませんが、互いの信頼関係と絆を深めることができました。

また、夏休みに被災地の母子や子どもたちを札幌から福岡までの9つの地域YWCAが受け入れ、キャンプや観光などのリフレッシュ・プログラムを展開しました。

ひと時のプログラムではありましたが、子どもたちは野外で思いっきり遊び、笑顔で溢れていました。お母さんたちからは、「心を休める時間が持てた。」と感想をいただいています。

夏が終わると同時にほとんどのご家族が福島に帰られましたが、放射能被害が終わったわけではありません。今後も放射能汚染から子どもたちを守るために、中長期的な支援活動を考えています。

### ■こころのケア活動

福島市と仙台市を中心に被災地のお母さんと子どもへの「こころのケア」を続けています。

福島では深刻な放射能汚染被害の中、不安な日々を送るお母さんたちを対象にした講座を開催しています。情報を提供し、ゆっくり丁寧に思いを聴きながら一緒に考えていくことを大切に進めています。

仙台では被災者への支援に加え、支援をするボランティアの心のケアにも着目し、フォローアップ講座を実施しました。

こころのケア活動は今後も続きます。

### ■福島県新地町での「災害ボランティアセンター」活動支援

宮城県との県境い湾岸部に位置する福島県相馬郡新地町において、当地の社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンター（現「しんち町生活支援ボランティアセンター」）に、5月7日～8月29日までボランティアコーディネーターを派遣し、地域YWCAの会員、職員、会友の31人（延べ人数40人）がその運営に関わりました。ボランティアセンターでは全国から集まるボランティアの受付と救護業務を担いました。また、ボランティアは被災家屋の泥だしや片付け、側溝の掃除、仮設住宅への引っ越し作業や炊き出しなどを担当しました。

さらに、新地町教育委員会と協働し、国内初の試みとしてテレビ電話相談をはじめました。名古屋YWCAは新地町の3つの小学校と最新のテレビ電話（シスコシステムズ合同会社提供）でつなぎ、子どもたちとおしゃべりをしながらさまざまな思いを聴いています。

これらの3つの主な活動に加え、日本YWCAは今回の原発事故のような悲劇が起こらないよう、地球規模の脱原発運動を推進していくことも間接的な被災者支援と位置づけています。

1970年から「核の平和利用」にもNO!の声をあげ「核」否定の思想に立つYWCAとして、40年の歴史を持つ日本YWCAの平和教育プログラム「ひろしまを考える旅」で原爆と放射能被害の実態を伝えるため、今年は宮城県と福島県の高校生、大学生そして教師の総勢11人をプログラムへ招きました。

日本YWCA被災者支援活動は、2011年3月末までを緊急支援活動、2011年4月から2012年3月までを中長期活動と位置付け、その後についても支援状況をみながら継続を検討します。

安定した支援活動を続けていくには皆さまからのご支援が必要となります。引き続き、被災者支援活動募金へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

前田圭子（被災者支援プロジェクト）